

2024年度自己評価

事業所名	わんぱくクラブ駒沢	世帯数	27世帯	職員数	14人
アンケート 実施期間	2024/12/12～ 2025/1/17	回答数	16世帯	回答数	8人
		回答率	59.3%	回答率	57.1%

	工夫している点	課題	改善目標
環境・ 体制整備	・靴箱や荷物置きは、あえて場所を固定しないことで、子ども達が主体的に選べる環境を整えている。 ・園庭にすぐに出られる環境を整えている。 ・カームダウンルームを設け、てんかん発作・パニック等の非常時に使用している。 ・スタッフ年齢層は、20代～60代。様々な年齢のスタッフを配置することで、多様な関わりができる環境にある。日々の子ども:スタッフの割合を、2:1以上にし、手厚い支援体制を敷いている。 ・その日来所する子どもによって、遊具の配置を変えて、遊びやすい環境をつくるよう努めている。 ・室内でも体を動かして遊べるよう、マットやトランポリンなど、大型の遊具を設置している。 ・その日ごとの集団遊びのプログラムや、班活動のメンバー・スタッフ一覧を貼り出し、子ども達が視覚的に情報を得やすいようにした。 ＜今年度の取り組み＞ ・ボランティアや、東京都の福祉体験事業（ふくチャレ）から実習の受け入れをした。 ・アルバイトスタッフへ、車両送迎の引き継ぎを進めた。 ・改修工事を行い、室内や園庭の環境を改善した。	・スタッフ全体の平均年齢が上昇傾向にある。 ・常勤職員の補充ができていない。 ・床の経年劣化があり、対応が必要。	・採用活動は、法人内の運営組織と連携して進める。職員体制と連動する形で、通所曜日を増やしたい家庭のニーズに応える。
業務改善	・保育後に、当日の振り返り会議（終礼）と、個人記録の記入時間を30分程度設け、スタッフ全体で当日の保育を総括したり、課題解決の検討を行ったりしている。 ・常勤職員で課題について共有し、改善策を考え、実行している。 ＜今年度の取り組み＞ ・法人内の他事業所職員が研修として、駒沢の保育に1週間入る取り組みを行った（他施設実習）。駒沢職員2名も他事業所に実習に出た。 ・職員間で、業務ローテーションや引き継ぎを行った。 ・ビジネスチャットツールを使い、施設内職員間、または他施設職員とのやり取りに活用した。 ・請求ソフトの試用を行った。	・各々の業務や送迎対応などで、保育のまとめに十分に時間を割けなかった。 ・デジタル移行が十分に進んでいない。 ・打ち合わせや終礼で、送迎によってスタッフの出入りがあり、情報共有しづらいことがある。	・まとめを行う日を月曜に固定せず、柔軟に行う。 ・次年度も引き続き、デジタルツールを用いて業務の効率化を図る。 ・情報共有は、対面が難しい場合は、オンライン・チャットを用いたり、次回出勤時に終礼内容を閲覧してもらうなど、工夫する。
適切な支援 の提供	・終礼を、活動報告だけに留まらず、支援の方向性や課題を検討する場に行っている。また、個別の子どもに焦点を当て、情報共有や、支援のあり方について検討する場を設けた。 ・表面的な行動面だけに着目した対応ではなく、背景にある児童の心の揺れ動きを捉えることを大事にしている。 ＜今年度の取り組み＞ ・職員は外部研修に参加し、専門的知識をつけるよう努めた。 ・年度頭に班替えをし、新しい小集団で後半の集団活動に取り組んだ。年度途中で班長・副班長の交代を行った。 ・土曜活動は、BBQやカラオケ大会、うどん作りなど、普段の放課後保育では取り組めないことをメニューにした。出席する児童が増えた。	・集団活動が、時間が詰まっており、忙しない。 ・袋菓子でのおやつが定着しているが、おやつ作りや、誕生会の日のおやつの内容変更など、今後検討したい。 ・支援の質を上げることを目的とした内部学習会を開催できなかった。	・集団活動は、より早く活動をスタートさせたり、1つ1つの時間の区切りの見通しをスタッフ間で共有する。 ・毎日でなく、非定期的にでも、おやつ作りをすることで、皆で食べるものを準備する楽しさや達成感を味わえるようにする。
関係機関や 保護者との 連携	・放課後連東京定例会に参加し、情勢や行政の動きを知ると共に、本事業所の活動や運営について現状共有した。 ・エリア自立支援協議会の定例会に参加した。 ・保護者へは、お迎え時や連絡帳を通して、当日の様子を伝えている。また、家庭や学校での様子を記入いただき、情報を共有している。 ・月が終わった後に、その月の個人記録集を配り、保護者と情報共有している。 ・おたよりを発行し、実践の中身を伝えるようにしている。 ・夏休みには、保護者が1日体験スタッフとして参加できる機会を設けた。 ・保護者会を2回開催した。 ＜今年度の取り組み＞ ・学校公開に参加した。 ・ハロウィンでは、地域のまちづくりセンターに協力いただき、子ども達がお菓子をもらいに行くイベントを行った。 ・季節行事は、保護者やきょうだい児が参加できる形をとった。	・保護者会は、参加人数が少ない回があった。 ・支援会議は開催がなく参加しなかったが、学校や相談支援事業所、他の放デイ事業所との連携がもっとできると良い。 ・自立支援協議会は不定期の参加になった。	・保護者会の内容を工夫するとともに、事前に予定を配布する。 また、懇親会とセットで行うことで、他の保護者や職員と交流する機会をつくる。
保護者への 説明責任等	・苦情内容の確認は即日に行い、職員間で共有している。 事故が生じた際は、法人で定めたマニュアルに則り、速やかに保護者に連絡し、状況報告を行う。 ・新規利用者については、契約開始時に、利用料金や、放デイの仕組み等について説明している。 ＜今年度の取り組み＞ ・新規利用者には、通所開始前の面談時に、わんぱく利用に関する手引きを渡し、説明した。 ・報酬改定による、算定方法の変更点を説明した。		・苦情は、大きく受け付けたものはないが、潜在的な不満や困り事がないか、引き続きコミュニケーションを取っていきたい。
非常時等の 対応	・入会時や定期的に行うアレルギー・てんかん調査表に基づき、非常時の対応について把握している。 ・災害備蓄品を置いている。年間で予算を決めて購入している。 ・避難経路図を作成し、室内に掲示している。 ・法人内で作成した、「事故等緊急連絡網」「緊急時医療関係連絡先」を掲示している。 ・屋外に防犯カメラを設置している。 ＜今年度の取り組み＞ ・災害伝言ダイヤルの訓練を行った。 ・保育中に、火災想定避難訓練を行った。 ・非常食や発電機用ガスボンベを買い換えた。	・非常時の対応について周知が不足していた。	・おたよりや保護者会で説明していく。